

南米日食報告

津村 光則

私は西はりま天文台のツアーで南米へ行きました。日食の観測場所はチリ北端のアリカから山中へ2時間ほど入ったコパキヤという標高2800mの高地でした。昨年Sky & Telescopeにこの日食に関する情報が載っていて、それによるとチリ北部のアンデス山中が晴天率がよいということでしたので、その場所へ行く「西はりま天文台、南米日食観測ツアー」に参加させてもらいました。それに、このツアーにはチリにあるヨーロッパ南天天文台の見学が付いていましたので迷うことなく決めました。人数は40名で、天文台見学が人気あったようでキャンセル待ちがかなりあったそうです。出発当日に森本雅樹先生がキャンセルされて、添乗員を含めて39名になりました。

日食前日の夕方、コパキヤにバスで到着しましたが既に日本の団体が幾つか来ていました。この場所には日本から、沼澤茂美さんのJPL、協栄産業ツアー、香西洋樹先生がインストラクターをされているアトムツアーが来ていました。ドイツのグループは明け方4時ごろに来るということを知りました。他に小型車による外国人のグループと警備のためのチリの軍隊数人、それに現地の人たち10人程度いました。軍隊は終夜熱いコーヒーや湯のサービスをして下さって0℃近くまで冷えていたのでとても助かりました。

前日の夜からほとんど徹夜で星を見ましたが、夕方の高層の雲が残っていたのか透明度は良くありませんでした。マゼラン星雲や南天の星は目で見えました。2日前にラセレナですばらしい星空を見ている吉岡一巳氏によると写真撮影する星空ではありませんでした。もっとも私は高山病で倒れていましたが、元気でいればディフュージョンフィルターなしでしみ星座写真を撮っていたはず。この場に居た多くの人たちは星の写真を撮っていました。熊森照明氏が持ち込んだ25cm F6 ドブソニアンはすばらしいタランチュラ星雲などを見せてくれました。

夜明けのころ全天快晴にならず所々雲が掛かっていました。第一接触から皆既30分ぐらい前まで青空の領域でしたが、皆既が近づくにつれて東の方から発生したうす雲が太陽に掛かり始めました。この雲は皆既が終わってしばらく掛かっていましたから、うす雲を通して日食を見ました。私は明るい太陽をファインダーに入れたりして目が慣れてなくて内部コロナと第三接触の彩層とダイヤモンドリングを肉眼で見ましたが、目を暗順応させていた黒田氏は上下に延びるコロナを雲越しに見たと言っていました。写真撮影にとって薄雲がかかって思わしくない結果に終わりましたが、肉眼や双眼鏡で観望するにはそれほど不満がなかったようです。

ESOの天文台では2基の3.5m反射望遠鏡を主鏡のメッキ装置から観測装置まで詳しく見せて頂きました。それに見学が終わってからレストランで全員に飲物とサンドイッチ、パイ、

アイスクリームのサービスがあって、日本の天文台と文化が違うことに全員感激しました。アメリカの他にラセレナ，首都サンチャゴ，リゾート地ビーニャ デル マル，港町バルパライソの観光もあって変化に富むチリを楽しむことができ満足な旅行でした。

こんな楽しいツアーを企画して下り、旅行中は全員無事に過ごせるように常にご配慮下さった黒田武彦さんにこの場を借りてお礼申し上げます。